

宮城県立がんセンター

MIYAGI
CANCER
CENTER



基本理念

患者さんの視点に立ち、良質かつ先進的医療を提供し、
がん専門病院としての使命を果たします。

基本方針

- ・ 患者さんの権利と安全を最優先した医療を行います
- ・ がんの予防・治療・研究を推進し、社会に役立てます
- ・ 患者さん及び地域医療と連携し、がん情報の普及に努めます
- ・ がん医療の人材を育成します



宮城県立がんセンターシンボルマーク

3本の柱は「治療・予防・研究」を意味します。
上の ● は患者さんを表し、3本の柱が支えます。

概要

所在地 宮城県名取市愛島塩手字野田山47番1号
 病床数 383床
 内訳 一般病棟 358床
 緩和ケア病棟 25床
 入院基本料 一般病棟 専門病院入院基本料(7:1)
 緩和ケア病棟 特定入院料
 施設の状況 敷地面積 69,289.72㎡
 建物延面積 34,160.73㎡
 鉄筋コンクリート造、地上7階・地下2階

日本医療機能評価機構認定病院機能評価 3rdG:Ver1.1

日本医療機能評価機構認定
病院機能評価副機能(緩和ケア機能 3rdG:Ver1.1)

厚生労働大臣指定 都道府県がん診療連携拠点病院

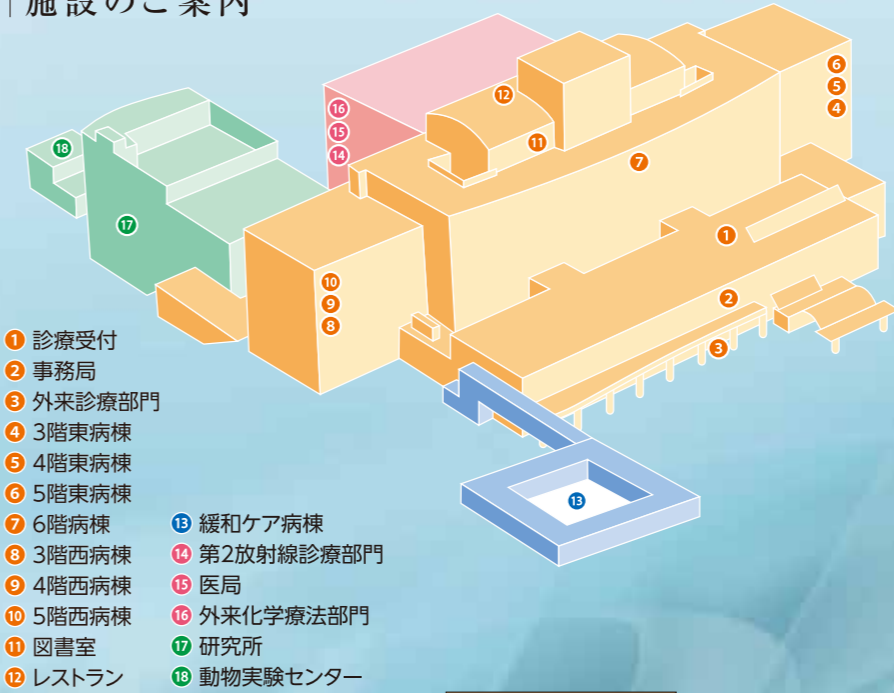
ISO15189認定施設

がんゲノム医療連携病院

沿革

昭和 42年 4月 宮城県立成人病センター開設
 平成 2年 宮城県立がんセンター(仮称)建設工事
 平成 5年 4月 宮城県立がんセンターと名称変更
 研究所を新設
 平成 14年 3月 地域がん診療連携拠点病院に指定
 平成 14年 6月 緩和ケア病棟診療開始
 平成 15年 9月 臨床修練指定病院に指定
 平成 18年 8月 都道府県がん診療連携拠点病院に指定
 平成 19年 4月 東北大学大学院医学系研究科連携講座
 「がん医科学講座」開設
 平成 20年 4月 DPC対象病院
 平成 22年 12月 病院機能評価付加機能(緩和ケア機能Ver2.0)認定
 平成 23年 4月 精神医療センター、循環器・呼吸器病センターと
 共に地方独立行政法人へ移行
 平成 24年 12月 日本輸血・細胞治療学会I&A認定
 平成 25年 5月 病院機能評価(Ver.6.0)認定
 平成 25年 10月 集学治療棟開棟
 平成 30年 4月 がんゲノム医療センター開設
 平成 30年 5月 病院機能評価(3rdG:Ver1.1)認定
 平成 31年 1月 皮膚科開設
 平成 31年 4月 精神腫瘍科開設
 令和 1年 9月 低侵襲外科センター開設
 令和 2年 1月 ISO 15189取得
 令和 2年 4月 腫瘍循環器科開設
 令和 2年 4月 患者サポートセンター開設

施設のご案内



- 1 診療受付
- 2 事務局
- 3 外来診療部門
- 4 3階東病棟
- 5 4階東病棟
- 6 5階東病棟
- 7 6階病棟
- 8 3階西病棟
- 9 4階西病棟
- 10 5階西病棟
- 11 図書室
- 12 レストラン
- 13 緩和ケア病棟
- 14 第2放射線診療部門
- 15 医局
- 16 外来化学療法部門
- 17 研究所
- 18 動物実験センター

		病 院	
		7F	レストラン・理容室・図書室
		6F 3F	病 棟
緩和ケア病棟			研 究 所
病 棟	集学治療棟	2F	手術部門・HCU部門・臨床検査部門・事務局・会議室
	外来化学療法部門	1F	外来診療部門・一般検査部門・生理検査部門・内視鏡検査部門・画像診断部門・薬剤部・受付・会計・栄養相談室・がん相談支援センター・売店 がんゲノム医療センター
	医 局	B1F	栄養管理部門・診療材料管理部門・病歴室・放射線治療部門・P検査部門
	第2放射線診療部門	B2F	
			動物実験センター

index

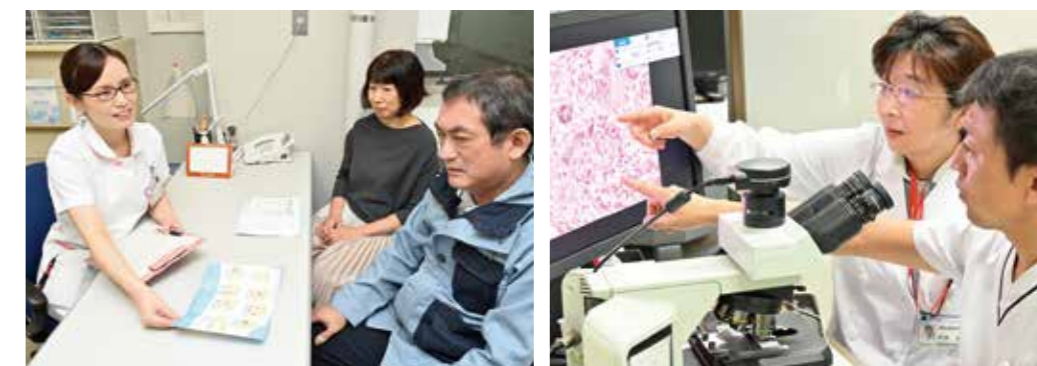
基本理念・基本方針・概要・沿革 02
 施設のご案内 03
 zoom 1 がんゲノム医療 04
 zoom 2 低侵襲外科治療 06
 zoom 3 高精度放射線治療 08
 zoom 4 化学療法:分子標的治療・外来化学療法 10
 zoom 5 緩和ケア 12
 zoom 6 患者サポート 14
 zoom 7 治験・臨床研究 16
 zoom 8 総合がん検診 18
 診療科 20
 看護部 24
 薬剤部 25
 診療放射線技術部 26
 臨床検査技術部 27
 ME機器管理室・診療材料管理室 28
 栄養管理室・リハビリテーション室 29
 感染対策室・医療安全管理室 30
 院内がん登録室・宮城県がん登録室 31
 事務局・ボランティア・院内保育園 32
 研究所 33
 学会認定施設等一覧 39
 アクセス案内 40



zoom 1
がんゲノム医療



ひとりひとりに合った医療（個別化医療）をめざして



がんゲノム医療センターの任務

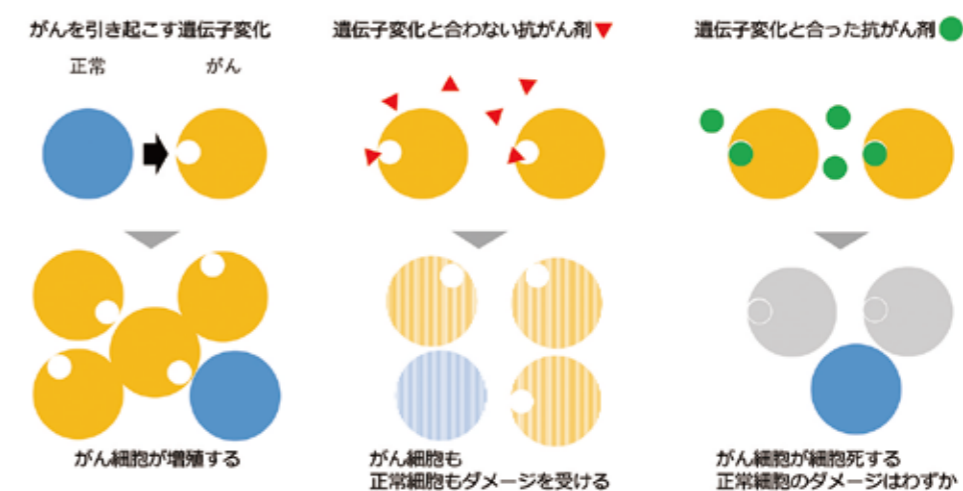
がんは親からももらったゲノム^{※1}が体の一部の細胞で変化して発生する疾患です。最近のがんを引き起こす様々なゲノム変化に対して狙い撃ちで作用する抗がん剤（分子標的薬剤）が開発されており、治療効果も高いことが分かってきました。

がんを引き起こすゲノムの変化というのは非常に多種多様であり、ひとりひとりについてそれらをまとめて検査することは困難でした。最近の技術の進歩によって、分子標的薬剤の選択のためのがん遺伝子パネル検査（がんゲノムプロファイリング検査）^{※2}が保険医療として始まっています。場合によっては採血で固形がんのがん遺伝子パネル検査も可能です。患者さんひとりひとりに効果の高い抗がん剤を選ぶことができるがんの精密医療、個別化医療が実現し始めています。がんゲノム医療センターは患者さんのゲノム検査が適切・円滑に行われるように支援しながらより良いがん個別化医療の実現に向けて取り組んでおります。

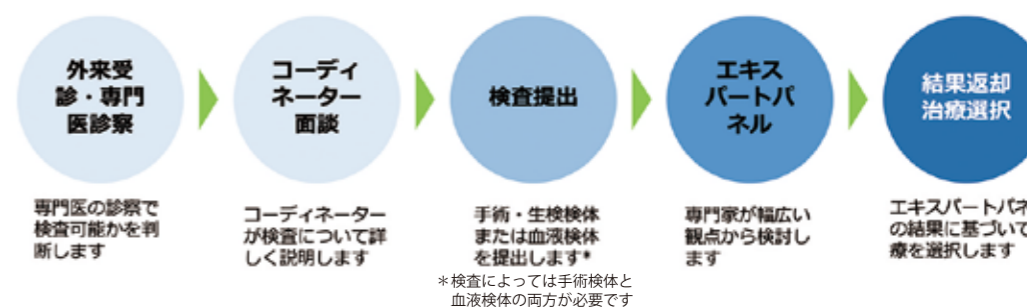
※1. 生物の設計図といふべき、親から子に伝わる遺伝情報一セット

※2. 次世代シーケンサでがん関連の100以上の遺伝子をまとめて解析する検査

がんの個別化医療とは



パネル検査の流れ



zoom 2 低侵襲外科治療



からだにやさしい手術療法をめざして



低侵襲外科センターの任務

すべての医療スタッフが協力し、安全な低侵襲手術を提供できるように努めていきます。

ロボット支援下手術 (da Vinci 手術)

ロボット支援下手術は高度な技術を必要とする手術で、手術を開始するまでに様々なトレーニング、多職種の協力のもと実施しています。

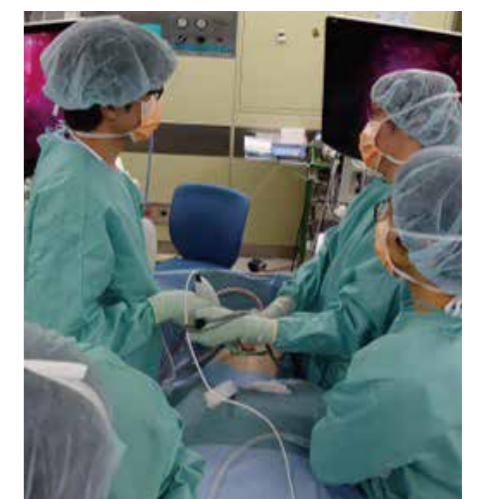
ロボット支援システムには、手振防止機能、広い可動域、高画質で立体的な視野などの利点があります。

当院では、泌尿器科でロボット支援腹腔鏡下前立腺全摘術を開始し、その後、順次、術式を増やして泌尿器科で膀胱がん、腎がん、消化器外科で胃がん、直腸がん、結腸がん、呼吸器外科で肺がん、婦人科で子宮がんに対してロボット支援下手術を行っています。今後、各科とも更にロボット支援下手術の術式を追加していく予定です。

鏡視下外科手術

当院では、消化器外科、呼吸器外科、泌尿器科、婦人科、頭頸部外科と複数の診療科で鏡視下外科手術を行っています。

内視鏡外科システムは、3D、IR (赤外光) 観察が可能なシステムや4K内視鏡外科システムを有しており、症例に合わせて使い分けを行っています。クリアで高精細な映像により、手術中の視認性が向上し、血管、神経、リンパ管などの微細組織を識別しやすく、安全に手術を行うことが可能です。





zoom 3

高精度放射線治療



『切らずに治す』

放射線治療は手術、化学療法と共に



がん治療の三本柱の一つです。放射線治療はリニアックを使用して体の外側から放射線を照射する外照射法と、小線源装置などを使用して体の内側から放射線を照射する内照射法があり、当院では両方の治療を行っています。外照射法では腫瘍の形状に合わせて放射線の強弱をつけて照射する強度変調放射線治療(IMRT)、腫瘍にピンポイントで大線量を照射する定位放射線治療(SRT)などの高精度治療を脳神経外科、頭頸部内科・外科、呼吸器内科・外科、婦人科の疾患に行っています。当院のリニアック3台の内、1台はトモセラピーというIMRT専用装置で、前立腺の治療をしています。令和5年より1回線量を上げて治療回数・期間を短縮する寡分割照射を開始しています。内照射法はあらかじめ体の中に挿入・刺入した器具の中に線源を装填して治療する小線源治療を婦人科の疾患に行っています。症状改善目的の緩和照射も各診療科のスタッフと連携し、緊急性のある放射線治療にも対応しています。





zoom 4

化学療法:分子標的治療・外来化学療法



日常生活と両立するがん治療の提供

外来化学療法室

抗がん剤治療は入院から外来へ

副作用のある抗がん剤治療は入院で受けるのが望ましいと以前は考えられていましたが、副作用対策が進歩したことで、現在は外来での抗がん剤治療が主流です。

化学療法は新しい時代に

がん細胞だけでなく正常細胞まで障害する細胞障害性抗がん剤のみの時代から、がん細胞を選択的に障害する分子標的薬や患者さんの免疫を調節することによりがんを障害する免疫チェックポイント阻害剤などが出現したことにより、がん治療は新しい時代になりました。

患者さんの病態に合わせた最適な外来化学療法

- 働きながら抗がん剤治療を受けたいと思われる場合には、金曜日の夜間化学療法(午後8時まで)を行っています。
- 抗がん剤治療で食欲が低下している方には、抗がん剤治療中にベッドサイドで管理栄養士によるカウンセリングを行っています。
- 抗がん剤の副作用や症状対策など、がん専門薬剤師による文書を用いた専門的な説明を行っています。
- 脱毛や皮膚のトラブルに関する悩みは、ソシオエステシャンに相談することもできます。(第4月曜日)





zoom 5
緩和ケア



中庭のある大きな家

建物は、緑に囲まれた「中庭のある大きな家」を思わせる建築です。病室は、ほとんどが個室で、採光や通風を十分に取り、住宅に近い生活環境を作っています。中庭は、ベッドのまま日光浴や散歩などができ、患者さんご家族と一緒に過ごせる安らぎの場となっています。



患者さん中心の良質な医療の実践



zoom5 緩和ケア

緩和ケア病棟では、がんという病気を背負った患者さんの生活機能ができるだけ保たれ、家族の皆さんと共にその人らしい生活を送ることができるように支援します。

緩和ケア病棟の理念

積極的ながん治療が困難な患者さんご家族に対して、さまざまな苦痛を緩和し、毎日が穏やかで安らげるよう支援します。
また、入院中においても尊厳をもって生きる自由を尊重します。

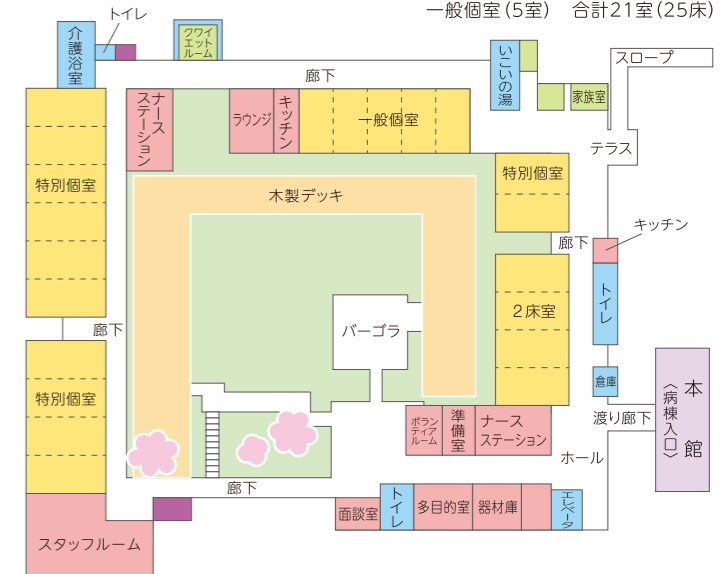


緩和ケア病棟の基本方針

- ◎ 静かな自然環境のなかで穏やかな療養生活を提供します。
- ◎ 身体的、精神的苦痛に対して、最新の医療を駆使して不快な症状を緩和します。
- ◎ 経済的な問題、人間関係の問題など、患者さんからのさまざまな相談に応じ、多職種スタッフが協力しながら専門性を発揮してケアを提供します。
- ◎ 患者さんご家族の皆さんの意志を尊重し、支援します。
- ◎ 在宅療養を希望される患者さんには、安心できる切れ目のない緩和ケアを引き続き受けられるよう調整します。
- ◎ 地域の医療機関と連携協力し、地域における緩和ケアの推進と発展を目指します。
- ◎ 日本緩和医療学会認定研修施設として病院内外の専門職への緩和ケア教育を行います。

緩和ケア病棟の配置図

2床室 (4室) 特別個室 (12室)
一般個室 (5室) 合計21室 (25床)





zoom 6 患者サポート



患者さんのところに寄り添います



患者サポートセンター

令和2年に新しく開設した「患者サポートセンター」は、がんの闘病しながら生活している全ての患者さんが、自分らしく日々の生活を送ることができるように支援することを目的としています。がん患者さんが日常の生活で生じる身体的なつらさ、精神的なつらさ、ご家族のつらさなど様々なつらさに寄り添います。かかりつけ医の先生方やお住いの地域の担当者と情報共有し、どこにいても同じように皆さんを支え、安心して治療を受けることにつながります。そのために「地域医療連携室」と「がん相談支援センター」と一緒になって支援しています。

地域医療連携室

- 紹介患者さんの予約受付と返書管理
ご紹介を受けた患者さんがスムーズに受診できるように、予約を受け付けています。さらに紹介いただいた医療機関に対する返書(診療情報提供書)の発送を行っています。
- 入院時支援
入院が決まった患者さんへ、入院時の準備品や入院費用などを説明し、不安なく入院していただけるように支援しています。
- 退院調整
各病棟に専任の担当者を配置しております。患者さんご家族のお気持ちに寄り添いながら安心して望む場所に帰ることができるように調整いたします。
- 外来患者さんの在宅療養支援
外来通院中の患者さんが、入院することなく安心して在宅での療養が継続できるように調整いたします。
- 登録医証発行
紹介・逆紹介などでお世話になっている医療機関に登録医証を発行しています。
- 地域医療機関からのお問い合わせ
ご意見・ご要望をいただくとありがたいです。いつでも、お気軽にご連絡ください。



がん相談支援センター

近年医療の進歩により、がんは治療可能な慢性病と言われるようになってきました。高度に進化、複雑化したがん診療を上手に受けるには、最新の正しい情報を得ることが不可欠です。病気の問題に限らず心理、社会面などを含め、がん診療に伴う痛み、不安をお持ちのがん患者さんやご家族に対し、がん相談支援センターでは看護師、公認心理師、医療ソーシャルワーカー等が対面または電話にてお話を伺い、解決の方法を一緒に考えていきます。

- ①がんに関する医療相談
病気についての悩みごと、困りごと、当院についての要望や様々な事についてご相談をお受けしています。
- ②こころの相談
ご自身のがん、ご家族のがんに伴い、心の辛さが生じている方へこころのケアを行っています。
- ③緩和ケア相談
緩和ケアに関すること、緩和ケア外来受診の方法や緩和ケア病棟入棟をご希望の時のご相談をお受けしています。
- ④医療費の相談
高額療養費制度・限度額適応認定証の申請、生活を支援する制度などのご相談をお受けしています。
- ⑤就労相談
仕事に関する悩みなどのご相談をお受けしています。
*ハローワークの出張相談をご希望の時は、がん相談支援センターで予約ができます。
- ⑥セカンドオピニオン
当院でセカンドオピニオンをご希望されるときは、がん相談支援センターで受付をしています。



zoom 7 治験・臨床研究

最新の医療の提供とがん医療発展のために



治験や臨床研究へ積極的に取り組み、日々進化するがん医療の発展に貢献し続けていくことは、がん専門病院としての重要な使命の一つです。

1. 臨床研究、治験とは

臨床研究とは、優れた医療を実現するため、人を対象に病気の仕組みや原因を調べたり、予防・診断・治療の改善や有効性を検証するために行う研究のことです。治験とは、臨床研究のうち、国から新薬として認められるために「薬の候補」を用いて実施されるものです。当院では臨床研究全般のみならず、治験を積極的に推進し、最新のがん薬物療法を受ける機会を患者さんへ提供しています。

2. 治験コーディネーター(CRC: Clinical Research Coordinator)

当院は、治験管理部門を設け、CRCと呼ばれる専門スタッフを配置しています。治験を行う医師、院内のさまざまな部門、製薬会社の間の調整を行うとともに、患者さんに寄り添い、安心して治験に参加できるようサポートしています。



■ 倫理審査委員会

診療や臨床研究の場で生じる様々な倫理上の問題を患者さんの立場から審査し、患者さんの権利と安全を確保しています。委員会に提出された課題に対して、1964年に世界医師会が定め、現在も臨床研究の中で医師が守るべき倫理規定とされているヘルシンキ宣言の趣旨を尊重するとともに、人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針、および関係するあらゆる法令を遵守して審査しています。

■ 受託研究審査委員会

治験を行うことにより新薬の有効性や薬の効果的な使用法が解明されるため、がん医療の発展に大きく寄与していますが、未知の副作用が生ずるなど患者さんにご負担をお掛けすることも希にあります。受託研究審査委員会では、新しい治験が合理的に計画され、倫理上の問題がないかを審査しています。また、委員会で承認された治験では、未知の副作用等が発生していないか、治験が順調に進んでいるかなどを患者さんの側に立って厳重に監視しています。



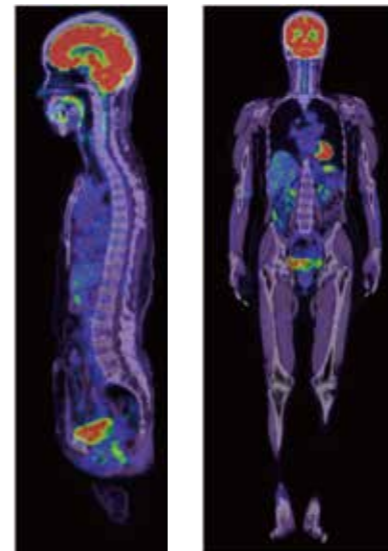
zoom 8

総合がん検診



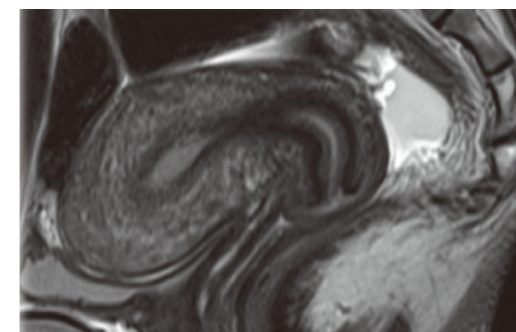
がんの特化した検診システムによる早期発見

がん専門医が検査・診断を行うことで、精度の高い検診を提供します



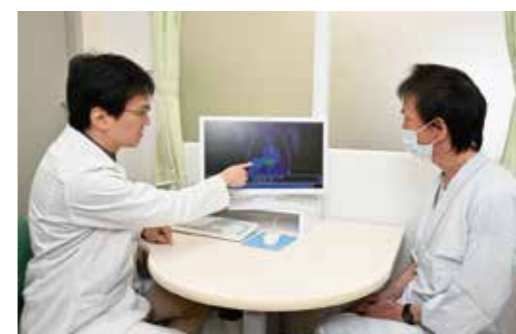
■ PET-CT 検査

PET-CT により全身検査を行います。主だった臓器はもちろんのこと、耳鼻科領域や身体の隅々のリンパ節までしっかりとチェックすることができます。



■ MRI 検査

女性の場合は超音波診断を含む婦人科的診察に加え、MRI による骨盤の広範囲なチェックを行い、漏れの無い検査が可能です。



■ 検診終了後

担当医から詳しく説明します。

■ 要精密検査だった場合

当院のそれぞれの専門外来で診断を確定させ、治療まで完遂します。

遺伝性がんのリスクを、ゲノム情報から調べる

最新のがん遺伝子に関する知見をもとに、がん家系である可能性を検索します

がんのうち、数%は遺伝の影響を強く受けます。体の細胞の中のゲノム情報（設計図）を調べることで、遺伝性がんにかかるリスクを判定し、今後の診療方針を決定します。



■ 遺伝カウンセリング外来

認定遺伝カウンセラーと面談し、遺伝性がんの素因をもっている可能性・遺伝子検査のメリット・デメリットを説明します



■ 遺伝子検査

面談後、ご希望によって血液検査を行い、ゲノム情報を調べます。結果に関しては、再度認定遺伝カウンセラーが結果の意味を説明し、今後の診療方針を決定します。

総合がん検診

WEB予約はこちら

スマートフォンやパソコンから
空き状況の確認やWEB予約が可能です。



英知を結集したがん専門医によるチーム医療

すべての“がん”に対応した高度医療を提供するため、がん専門医によるチーム医療を行います。また、併せて、がんの周辺疾患の診療も充実させて、がん征圧に向けてすべての医師が一丸となって治療にあたっています。

- | | | | |
|-----------|-------------|-----------|----------|
| 01 血液内科 | 08 精神腫瘍科 | 15 脳神経外科 | 22 病理診断科 |
| 02 腫瘍内科 | 09 糖尿病・代謝内科 | 16 泌尿器科 | 23 臨床検査科 |
| 03 呼吸器内科 | 10 呼吸器外科 | 17 婦人科 | 24 歯科 |
| 04 消化器内科 | 11 消化器外科 | 18 頭頸部外科 | |
| 05 頭頸部内科 | 12 乳腺外科 | 19 放射線診断科 | |
| 06 緩和ケア内科 | 13 整形外科 | 20 放射線治療科 | |
| 07 腫瘍循環器科 | 14 形成外科 | 21 麻酔科 | |

腫瘍内科

02

がん薬物療法専門医が、食道癌、胃癌、大腸癌、膵臓癌などの消化器癌から軟部悪性腫瘍や原発不明癌まで幅広く化学療法を行っています。また、常に最新ガイドラインを遵守し、分子標的薬、免疫チェックポイント阻害剤などを組み合わせた治療法を実践しています。癌の遺伝子異常を網羅的に検討し、新たな治療選択肢の可能性を探ることも可能です。もっとも重要なことは患者さんがその方らしく過ごすためにはどうしたらよいかを常に考え、症状緩和治療も含めた全人的治療を行うことです。



頭頸部内科

05

頭頸部がん・甲状腺がんの薬物療法を担当しています。頭頸部には、生きていくうえで重要な眼・耳・鼻・口・のど・歯などの臓器が集中し、治療により生活の質が大きく変化します。そのため、頭頸部内科・外科、形成外科、放射線治療科・診断科、歯科、言語聴覚士などの多職種チームでがん治療に取り組んでいます。また、新しい治療として分子標的薬や免疫療法の開発が世界中で進んでおり、各種臨床試験にも積極的に取り組んでいます。宮城県内はもちろん東北地方全体から患者さんを受け入れていますのでお気軽にご紹介、お問い合わせください。

血液内科

01

県南唯一の血液内科診療施設として、良性、悪性を含めて血液疾患の診断、治療を幅広く行っています。血液疾患は治療が長く続く病気も多く、患者さんの状態に合わせて治療を行います。

入院病棟には6室のクリーンルームも備え、自家末梢血幹細胞移植、同種造血幹細胞移植も積極的にを行っています。移植時には、リハビリも取り入れています。移植後は移植患者専門の移植後外来で移植コーディネーターとともにフォローしています。

呼吸器内科

03

肺がんは高齢化に伴い増加している一方で、薬物療法は近年目覚ましく進歩しており、より専門性が高くなっています。がん細胞の遺伝子やがんのタイプによって薬剤を選ぶ「個別化医療」が確立され、従来よりも生検の重要性が増しています。当科では超音波ガイド下生検を積極的に行っており、気管支鏡検査も最新の手法を導入して患者さんの苦痛をなるべく少なくし、早期に治療を開始できるよう心がけています。患者さんひとりひとりで異なる背景に応じて最適な治療を検討し、診断から薬物療法、放射線治療、緩和治療まで専門各科と連携して行っています。

消化器内科

04

消化管領域および肝臓、胆道(胆嚢・胆管)、膵臓領域におけるがんを中心とした悪性腫瘍に対する診断と治療を行っています。近年、医療の進歩に伴い診断や治療は細分化し、各臓器別に専門性が求められています。消化器内科では、上部消化管(咽頭・食道・胃・十二指腸)、下部消化管(小腸・大腸)、肝臓、そして胆道・膵臓の4つのグループに別れ、最新の知見を取り入れながら、専門的に診断、治療を行っています。特に内視鏡治療や新規抗がん剤を含めた化学療法など、患者さんひとりひとりの状況に応じて最適な治療を提案しています。

緩和ケア内科

06

緩和ケア内科では、積極的な治療が困難となったがん患者さんに、様々な身体的、精神的苦痛を緩和し、穏やかに過ごせるよう支援を行うために、緩和ケア病棟または緩和ケア病床での専門的診療を行っています。さらに、院内では多職種で構成された緩和ケアチームの活動を通じて、抗がん剤や放射線で治療中の患者さんに対して側面からの支援をしています。また、在宅診療支援医療機関と連携協力し、地域における質の高い緩和ケアの普及と推進を目指しています。

腫瘍循環器科

07

令和2年度より腫瘍循環器科と改称しています。従来の循環器診療に加えて、がん診療に係る特殊な病態への対応も行っています。

一般循環器診療としては、術前心機能評価や突然発症する不整脈、狭心症、心不全等への対応を行っています。また、担がん患者さんでは、がんサバイバーの生命予後が改善したことで、がん自体、あるいはがん治療に伴う心臓血管障害や血栓症が生じることが明らかとなってきました。主科の先生と協力して、がん関連心血管合併症の予防や管理を行い、がん治療がスムーズに完遂できるようサポートしています。

糖尿病・代謝内科

09

当院には数多くのがん患者さんが入院され手術や化学療法を受けられていますが、その中には糖尿病を合併された患者さんも少なからずおられます。当科では、糖尿病合併患者さんの手術や化学療法がスムーズに行われる様に、良好な術前・術後や化学療法中の血糖コントロールを行うことを目標としております。

呼吸器外科

10

肺がんの手術では胸腔鏡(きょうくうきょう)という内視鏡手術システムを使って、できるだけ小さな傷で肺を切除するのが世界的な潮流となっています。4Kなどの映像技術の進歩によって、昔とは全く違う綺麗な視野で胸腔鏡手術が出来るようになりました。当科ですでに95%以上の手術はこの胸腔鏡システムを使用して行われており、なかでも3cm程度の小さな孔一つで肺を切除する単孔式の胸腔鏡下手術は侵襲が最も少ない手術として実施しています。また、令和3年からはロボット支援下手術を導入し、遠隔操作によって肺がんを切除するという、最先端の胸腔鏡手術にも対応しています。

乳腺外科

12

手術、薬物療法、放射線療法を組み合わせ、乳がんと診断された人に最適な(効果が高く負担の少ない)治療を提案し選択できるように心がけています。乳房温存手術においては必要かつ十分な切除と形の良い乳房を残すための診断能力と技術を磨き、乳房全摘が必要な場合には形成外科と協力して乳房再建手術も同時に行っています。遺伝性乳がん卵巣癌の人には婦人科と協力して予防的な手術が同時に可能です。乳がんの転移・再発と診断された人に対しては、その人の生活環境や考え方に添った治療を随時相談しながら決定し、必要があればパネル検査も行います。

精神腫瘍科

08

「精神腫瘍科」は令和4月からがんセンターに新しく開設された診療科です。精神腫瘍科(あるいは精神腫瘍学)と聞いてもピンとこない方がほとんどだと思いますが、がんに罹った方の心に関する問題を専門に扱う科になります。がんは心に大きな影響を与えます。診断前の検査から始まり告知、手術や化学/放射線療法、再発への懸念、仕事との両立、家族への影響……。うつ状態やうつに近い状態(「適応障害」といいます)になる方を調べたところ10~30%が該当した、との研究結果もあります。東北地方ではがんセンターが初めての「精神腫瘍科」を標榜することとなります。安心してがん治療を行えるように、メンタル面のサポートを提供していきたいと考えております。



消化器外科

11

消化器がんの治療経験の豊富な消化器外科の専門医たちが連携し、胃・十二指腸、小腸・結腸、直腸肛門管、肝胆膵領域全般のがんの外科治療に取り組んでいます。ロボット支援下手術・腹腔鏡手術など低侵襲手術に力を入れる一方で、当院の特長を生かして、内科、腫瘍内科、放射線科、その他の診療科や研究所各部門とも連携した集学的治療にも取り組んでいます。がんの根治性と機能温存の両面から、ひとりひとりの患者さんが最高のがん治療を受けられるよう、経験を駆使して外科治療に取り組んでいます。

整形外科

13

原発性の骨・軟部腫瘍および様々ながんに発生した骨転移を中心に診療を行っています。原発性腫瘍の治療は手術が基本ですが、高悪性腫瘍の場合は化学療法や放射線療法も考慮します。骨転移は手術・疼痛管理・骨修飾薬投与・放射線療法・リハビリテーションなどのコーディネートを行うとともに、原発不明がんの精査(骨生検など)も積極的に手掛けています。近年がんやその治療により移動機能が低下してしまう「がんロコモ」が問題となっており、各科や各部門のスタッフとともに患者さんのQOLを維持・改善すべく診療にあたっています。



形成外科 14

形成外科では、がんの手術によって生じる「形の異常（変形・欠損）」と、がんの治療に伴って生じた様々な「きず」や「きずあと」を治します。口腔がんの手術で舌や下顎が切除されるときは、下肢から皮膚・皮下脂肪や骨などを移植して、手術後も食事や会話ができるようにします（頭頸部再建）。乳房が切除された場合は、人工乳房や腹部などからの組織移植によって乳房をつくります（乳房再建）。また手術や放射線治療後にできた治りにくい傷（難治性創傷）や、その後に残った目立ちずあと（瘢痕・ケロイド）も最新の機器や薬剤などを用いて治しています。

放射線治療科 20

放射線治療科では主に、がんを始めとする悪性腫瘍に対する放射線治療を施行しております。治療の目的によって、がんの根治を目指す根治照射、手術後の再発予防目的の術後予防照射、根治は望めなくとも疼痛などの症状を改善する目的の緩和照射などと分類されることもあります。近年技術の発達と機械の高精度化に伴い定位放射線治療（SRT）や強度変調放射線治療（IMRT）などのいわゆる高精度治療が盛んにおこなわれていますが、当院でも積極的に取り組んでおります。患者さんが直接放射線治療科を受診する事はなく、主治医先生からの紹介となります。

麻酔科 21

多くの手術は痛みと大きなストレスを伴います。麻酔とは手術の痛みを感じなくさせ、かつ多様なストレスから患者さんの体を守るため、疼痛、呼吸、循環、代謝などを能動的に制御管理する医療であり、これを専門に担っているのが麻酔科医です。当院では、日々多数の診療科がロボット支援手術や内視鏡手術、長時間手術や大侵襲手術など様々な高難易度手術を行っています。当科では、これら多種多様な手術と患者さんの体の状態に合わせて、きめ細かい麻酔管理調節を行い、手術に際して最大限の安全性を担保する医療の提供に努めています。

脳神経外科 15

悪性神経膠腫、中枢神経系原発リンパ腫、転移性脳腫瘍等、悪性脳腫瘍の治療が中心です。宮城県では専門的な悪性脳腫瘍の治療を主に2施設で行っており、当院はその一つです。手術療法、化学療法、放射線療法を組み合わせ、多方面から疾患にアプローチします。悪性脳腫瘍患者さんの症状は急速に悪化することがしばしばあるため、診断から治療開始まで、迅速な対応に努めています。また、治療後の退院支援にも積極的に取り組んでいます。

泌尿器科 16

泌尿器悪性腫瘍を治療対象としています。前立腺がん、膀胱がん、腎細胞がん、腎盂尿管がん、精巣がんなどが主な疾患です。手術、化学療法、放射線療法等を駆使してがん治療に取り組んでいます。ロボット支援下手術、鏡視下手術など低侵襲治療を積極的に行っています。また、術後のQOLを大切にするとともにガイドラインやエビデンスに基づいた治療を行っています。患者さんの目線に立ち、医療連携によるきめ細かい医療に努めています。

病理診断科 22

令和元年（2019）は、がんゲノム医療（precision medicine）が保険収載され、本格始動した年でもあります。ゲノム医療元年となりましたが、医療における近年の変容は現場にいる我々にとっても驚くばかりで、とくに肺がん治療の着実な進歩には目を見張るものがあります。これを契機として、病理診断科にはがんゲノム医療を支える品質と精度を保証する役目が課せられています。東北で唯一のがん専門病院であり、今後もがんのフロンティアあるいはエキスパートの立場から、より高度で先端的な医療を皆様のもに提供していきます。

臨床検査科 23

臨床検査科の業務は、病気の診断・治療・経過観察の指針となる患者さんの情報を正確かつ迅速に臨床の現場に提供することです。良質な臨床検査データ提出のため、国際規格の外部認証の1つであるISO15189を取得し、かつ各種学術団体等が実施する精度管理調査にも参加することで、第三者からの評価を受けています。各種検査を担当する臨床検査技師は、様々な認定資格を取得すると共に研修会などにも積極的に参加し自己研鑽に励んでいます。各診療科の担当医がエビデンスに基づいた医療を提供できるよう日々努めています。

婦人科 17

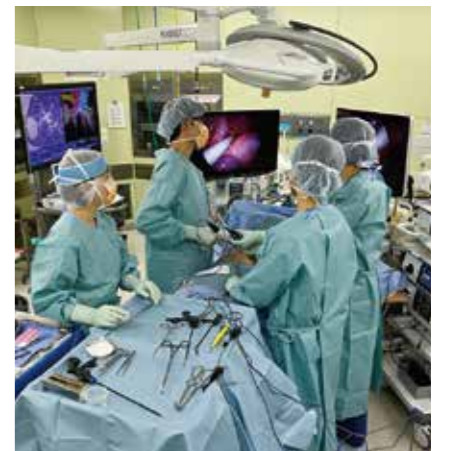
婦人科悪性腫瘍（子宮頸癌、子宮体癌、卵巣癌）の診断を行い、病状に応じた手術・化学療法・放射線治療などを集学的に行います。ガイドラインやエビデンスに基づき、積極的な手術療法や新規治療薬の導入も行いながら病気の治癒・病状コントロールを目指します。また可能な限り妊孕性・機能温存を取り入れた治療や侵襲の少ないロボット支援下手術・鏡視下手術も提供しています。遺伝性乳がん卵巣がん症候群の診療も各科と連携を取りながら行っています。幅広い年齢層の患者さん達により良い治療を届けられるよう、スタッフ一丸となって取り組みます。

頭頸部外科 18

頭頸部がん治療では生命予後の向上と機能温存（呼吸・食事（咀嚼・嚥下）・発声・味覚など）が重要であり、これらの両立を高いレベルで達成することが重要です。そのため、低侵襲手術や機能温存再建手術などを行い予後の向上とともに積極的な機能温存を図っています。また、外科のみで機能温存を達成することが難しい場合も多く、多彩な治療手段を確保することが大事になるため、頭頸部内科や放射線治療と協力して臨床研究や治験などにも参加し日々患者様へ最善の治療を提供することを目標として頑張っています。

歯科 24

現在のがん治療を安心・安全に行うには、さまざまな副作用を予防・軽減していく治療（支持療法）が必須とされており、中でも重要視されているのは栄養管理と感染症対策です。体重減少が治療成績に影響することから、栄養管理、とりわけ経口摂取（口から食べる）が最良とされています。また抗がん剤治療による白血球減少をきっかけとした発熱で抗がん剤治療が中断となるため感染症対策は重要です。抗がん剤治療による発熱のうち5人に1人は、歯と口が原因と報告されています。このように、がん治療において歯と口の管理は治療成績に直結します。がん治療が安心・安全に行えるよう患者さんをサポートしていくのが当院歯科の目指しているところです。



放射線診断科 19

当科は画像診断機器を用いた診断に特化した診療科です。CT、MRI、PETを含む核医学検査、血管造影検査が年間2万件以上施行されており、その殆どの症例に対し診断専門医による画像診断報告書が作成され各診療科に提供されています。当院ではDual Energy CT、3テスラMRI装置、PET/CT装置などの高性能装置が導入され、安全で質の高い画像診断サービスを提供しています。また放射線診断機器を用いた低侵襲治療（Interventional Radiology）も積極的に実施しています。

◎当センターで行っている主な専門外来

名称	目的・内容	担当
移植外来	同種造血幹細胞移植患者のフォローアップと晩期合併症のスクリーニング	血液内科医師・専任看護師
卵子凍結保存外来	悪性腫瘍患者さんの卵子・配偶子凍結保存の相談	婦人科医師
夜間化学療法	化学療法を通じたがん患者さんの就労支援	腫瘍内科医師・専任看護師
遺伝カウンセリング	遺伝性乳がん卵巣がん症候群の可能性の高い患者に対するカウンセリング	乳癌外科医師・認定遺伝カウンセラー
嚥下外来	摂食・嚥下障害の早期発見と誤嚥性肺炎の予防	頭頸部外科医師・言語聴覚士
がん看護外来	がん患者や家族の身体・精神症状のマネージメント、心理的サポート	専任看護師



看護部

－看護部理念－

人々の生命及び人権を尊重し、温かく
信頼感に基づいた質の高い看護を提供します

がん患者さんが「自分らしく生活ができる」看護を提供します



がん患者さんやご家族は、様々な思いを抱き、その都度自分に折り合いをつけながら療養生活を送っています。がん治療の選択、その効果や副作用など、がんと向き合いながら毎日の生活を送り不安を抱えている方も少なくありません。看護部は、患者さんが常に最善で最適な治療が受けられるよう、また患者さんが希望を持ち、自分らしい生活が送れるように看護することを大切にしています。エビデンスを持った判断でがん患者さんひとりひとりに向き合い、温かい姿勢で看護を提供し、今を生きるがん患者さんを支援します。



「がんと共によりよく生きる」を支えるスペシャリスト

専門的知識と豊富な経験を生かし、患者さんへの質の高いケアの提供やスタッフからの相談、教育活動を院内・院外で活躍しています。

がん看護専門看護師	感染症看護専門看護師
緩和ケア認定看護師	感染管理認定看護師
がん性疼痛看護認定看護師	乳がん看護認定看護師
がん化学療法看護認定看護師	皮膚排泄ケア認定看護師
がん放射線療法看護認定看護師	摂食嚥下障害看護認定看護師

がん看護・看護外来

がん看護・看護外来は、がん看護専門看護師・緩和ケア認定看護師等、スペシャリストナースが担当する外来です。病気や治療に伴う身体症状や心のつらさ、療養生活の中での不安や心配事等について、治療と並行して患者さんやご家族のつらさを和らげる医療を専門職と連携して提供します。



薬剤部

薬の面からがん治療を支えます



薬剤師は主に次の場所で仕事をしています

調剤室

入院および外来患者さんの薬を調剤、交付しています。特に抗がん薬を含む処方、治療計画に則った、適切な用量や投与間隔であることを十分に確認します。



外来化学療法室

抗がん薬（注射剤）の特長をふまえ、安全に混注して患者さんに提供しています。また、医師の依頼のもと、外来で治療を受ける患者さんに薬の説明や副作用の確認を行っています。



病棟

患者さんに薬の効果や飲み方などの説明を行うほか、飲み合わせや副作用の確認など、薬が正しく使われるように支援しています。そのほか、チーム医療の一員として痛みや感染症、栄養などに関するサポート、また麻薬や治療薬の管理など、薬を通じて患者さんのがん治療を支えています。



診療放射線技術部

放射線を使用した検査と治療を行っています



放射線診断部門

一般撮影

一般 X 線撮影装置 FPD を使用し、低線量で高画質な画像を提供しています。

CT・MRI

CT (コンピューター断層撮影) は X 線を身体の周囲から当てて人体の輪切り画像を得る検査です。MRI (核磁気共鳴画像) は核磁気共鳴現象を利用して人体の様々な断面を画像化する検査です。また、CT 装置を併用した血管造影と血管内治療 (IVR) を行っています。

核医学診断

RI (核医学) 検査は、放射性医薬品を投与して目的臓器 (脳、肺、心臓、腎臓、骨など) に集まったところをガンマカメラでその体内分布を画像にします。

放射線治療部門

放射線治療

放射線治療はリニアックでは IMRT、SRT、小線源治療装置では腔内照射、組織内照射と、この 2 つを併用したハイブリッド照射を行っています。放射線治療医、診療放射線技師、医学物理士、看護師、事務職員と連携し、チーム医療を行っています。



臨床検査技術部

国際規格に則した臨床検査室の品質と能力を保証します



臨床検査技術部は、がんの診断や治療のために必要な臨床検査業務を担い、的確かつ迅速に精確な検査データを提供すると共に、検査の全過程において国際規格 ISO 15189 に基づく品質の維持向上に努めています。また、宮城県立がんセンターのめざす最新・最適な医療の提供に貢献しています。

臨床検査室

生化学、免疫血清、血液、細菌、輸血、遺伝子検査などを行っています。

病理検査室

病理組織検査や細胞診検査、遺伝子検査などを行っています。

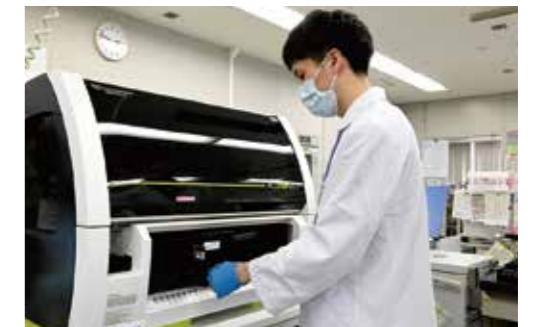
生理検査室

心電図や呼吸機能、各領域の超音波検査を行っています。

血液管理室

安全で適正な輸血のために血液製剤管理を行っています。

私たちは、最新の検査技術と知識を持つプロフェッショナルとして、認定輸血検査技師、細胞検査士、超音波検査士、遺伝子分析科学認定士等の各認定資格の取得にも力を入れています。また、感染対策チームや栄養サポートチーム、がんゲノム医療センターなどのチーム医療にも協力しています。



ME 機器管理室

医療機器管理を通じチーム医療の一員として患者さんに安全かつ良質な医療を提供するサポートをしています

臨床工学技士とは、厚生労働大臣の免許を受け、医師の指示の下に生命維持管理装置の操作及び保守点検を行うことを業とする医学と工学両方の知識を持つ医療機器専門の医療職です。主な業務内容は次の通りです。

■ 機器保守管理業務

病棟で使用する輸液ポンプや超音波ネブライザ、人工呼吸器、除細動器、手術機器院内で使用する様々な医療機器の保守管理を行っています。

■ 臨床技術提供

ロボット支援下手術、腹腔鏡下手術等、内視鏡手術に必要な機器の準備・操作、高周波手術装置や麻酔器等のトラブルに対応しています。また病棟での人工呼吸器使用中のラウンド、末梢血幹細胞採取、急性期血液浄化療法、腹水濾過濃縮、体外式ペースメーカー等、様々な機器の作業を行っています。

■ 院内教育

医療機器安全使用のため院内スタッフに対し、医療機器の取扱いや説明や使用方法についての講習会を行っています。



栄養管理室

患者さんの栄養管理をサポートします



がん治療では、栄養状態を維持しながら治療を乗り切ることが重要です。しかし、がんの患者さんは、がんや治療の影響により食事摂取量が減り、栄養状態が低下することも少なくありません。管理栄養士は栄養指導・相談を通して、ひとりひとりのがん治療に寄り添った栄養の提案を行っています。入院中のお食事は、症状に合わせて食形態の調整・補食の追加等、個別に対応し栄養面からサポートします。食事を楽しみにしていただけるよう、季節に合わせた行事食や選択メニューを多く取り入れています。

診療材料管理室

縁の下の力持ちとして、診療材料の提供を通じ患者さんに安心・安全な医療を届けます

信頼できる性能や品質の物品や器材がなければ、診療業務を円滑に行うことができなくなります。診療材料管理室は、院内すべての部署へ安全な診療材料を安定して供給するため、中央倉庫と中央材料室の二つの部門と連携して業務を行っています。

中央倉庫では、処置や手術に必要な診療材料の購入・検品・情報提供・メーカーとの価格交渉・世界情勢を鑑みた必要数の確保など多岐にわたる業務を行っています。



中央材料室では、診察や手術に必要な、繰り返し使用する器材の回収・洗浄・滅菌・滅菌物の管理・払い出しまで、一括した業務を行っています。



リハビリテーション室

がん患者さんの生活を支えるリハビリテーション



手術前から緩和期に至るまでがん患者さんのいずれの病期においても全ての診療科からリハビリテーション（以下リハ）の処方があります。手術前では合併症を予防するためのリハ、術後の回復のリハ、現状を維持するための生活的リハ、また終末期の方への緩和的リハなどその方の病期に応じた目標設定をして、行っております。リハの内容は、日常生活動作の改善や移動動作の検討、食べることや話すこと、生活の質の向上を目的とするなど症例により様々です。患者さんへリハを提供するだけでなく、家族の方へ介助方法の説明や環境整備の提案も行っております。

感染対策室

感染症の脅威からすべての人々を守る



感染対策室は、患者さんや職員だけではなく病院に関わる全ての人々を感染症の脅威から守り、そして、感染症に罹ったとしても早期から最適な治療が行われるように病院全体を俯瞰する病院長直属の組織です。保健行政や全国の医療従事者と連携し国内の感染対策水準の向上に寄与しています。

院内がん登録室

精度の高いデータベースを構築し
診療・研究・がん対策に役立てます



国の認定試験に合格した専従の診療情報管理士が、がん患者さんの診断・治療・予後に関する情報を登録するとともに、住民票照会・本籍地照会を行い、精度の高いデータベースを構築しています。データは、全県・全国的な集計に役立てられ、がん罹患や診療実態のモニタリングに活用されるとともに、がんの疫学研究・臨床研究にも活用されています。また、都道府県がん診療連携拠点病院として県内外のがん登録の実務者の育成にも貢献しています。

医療安全管理室

チームで取り組む医療安全



病院の様々な医療安全活動を担っているのが医療安全管理室です。院内から提出されるインシデントレポート（ヒヤリハット報告）の収集・分析、院外の複数の機関から発出される医療安全情報の収集に基づいて、医療安全確保のための具体的な施策を推進しています。さらに医療安全に関連する諸々の委員会・部署（右記）とも連携した活動を行っています。

- ・院内感染防止・医療廃棄物対策委員会
- ・医療機器安全管理委員会
- ・放射線安全委員会
- ・医療ガス安全・管理委員会
- ・医療情報管理委員会
- ・低侵襲外科センター運営委員会
- ・薬剤部
- ・ご意見・ご提案検討部会
- ・がん相談支援センター

宮城県がん登録室

宮城県のがん登録事業を円滑に行い
がん対策の推進に貢献します



宮城県のがん登録は、東北大学医学部公衆衛生学教室が昭和26年に行ったがん罹患調査に端を発し、日本で一番古い歴史があります。宮城県対がん協会が宮城県より受託していた事業を、宮城県立がんセンターが平成31年に引き継ぎました。県内のすべての病院からがんと診断された方の情報を受け付け、審査・集約を行い、国がまとめる全国がん登録へ提出しています。また、宮城県の集計結果は「宮城県のがん罹患」として公表され、がん対策に役立てられています。精度の高いデータは、がんの疫学研究や病院、市町村にも活用されています。



事務局

より良い医療が提供できるよう各診療部門を全力でサポートします



事務局は診療部門がスムーズに医療を提供できるように、経営資源を管理しながら診療部門をサポートする部署です。総務グループ、財務グループ、医事グループ、経営改革グループの4グループ体制で業務を行っております。



- ・総務グループ | 庁舎管理、防災管理、職員の労働安全衛生、給与、広報、その他病院の総合調整等
- ・財務グループ | 予算・決算、物品等の調達、資産管理、研究所事務、その他財務業務
- ・医事グループ | 診療報酬請求、施設基準届出、診療記録、診療費その他費用の徴収・還付、その他医事業務
- ・経営改革グループ | 経営分析、医療情報システムの管理、がん診療連携拠点病院の事務

ボランティア

がん患者さんの生活を暖かくサポートします



病院を利用される患者さん、ご家族が、安心して医療や療養が受けることができるよう、病院の職員と連携を図りながら無償でサービスを提供しています。ボランティア「ひだまり」は、平成12年に当院の緩和ケア病棟設立の基盤となった「ターミナルケアを考える会」を中心に発足し、その後活動の充実を図りながら、令和2年に創立20周年を迎えました。長期間に渡り活動を支えて頂いている方も多く、ボランティア登録者数は80名を超え県内の病院の中でも充実した活動を行っています。

院内保育園

仕事と子育ての両立を応援します



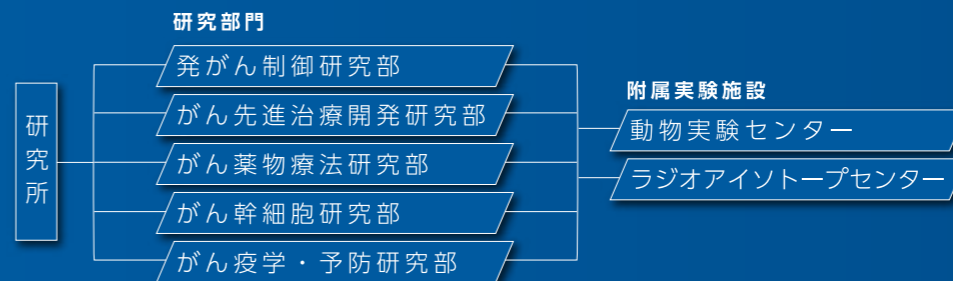
宮城県立病院機構職員が、安心して仕事と子育てを両立できるようにがんセンター敷地内に単独で設置された保育室が「つくし保育園」です。職員の希望で、終夜保育にも対応可能としています。保育園では、子供の年齢に応じた保育プログラムを柱に、季節に触れる行事で心が豊かに育まれる保育を提供し、時に子供達の可愛い姿も見受けます。病院と保育室との連携を密に取り、安全・安心な保育環境に努めています。



研究

Research Institute

研究所は診療部門との緊密な連携のもとに、がん医療への応用を目指した革新的な研究を推進しています。また、研究部門及び診療部門にはそれぞれ5つずつ東北大学大学院医学系研究科連携大学院が併設されています。



INDEX >>>

発がん制御研究部(がん分子制御学分野) …… P.34 >
 がん先進治療開発研究部(がん病態学分野) …… P.35 >
 がん薬物療法研究部(腫瘍生化学分野)
 がん幹細胞研究部(がん幹細胞学分野) …… P.36 >
 がん疫学・予防研究部(がん疫学・予防学分野)
 動物実験センター・ラジオアイソトープセンター …… P.37 >
 呼吸器科腫瘍学分野
 婦人科腫瘍学分野 …… P.38 >
 泌尿器科腫瘍学分野
 頭頸部腫瘍学分野 …… P.39 >
 腫瘍病理学分野
 [学会認定施設等一覧]



かつて、がんは簡単には治癒しない大変怖い病気でしたが、現在では多くのがん患者が社会に復帰し、天寿を全うできる時代になりました。その背景には基礎研究による“がんのよりよい理解”とそれに基づく合理的な診断治療のための基盤技術の開発がありました。例えば最新の分子標的薬剤は過去の化学療法よりもずっと高い効果を示しますが、それは、がんの病態解明から治療薬開発につながる多くの基礎研究の蓄積の結果です。

当院は最先端の研究成果に基づく、新しく効果的な診断治療技術をできるだけ早く県民に還元することが使命であり、研究所もその一員として診療部門に全面的に協力してまいります。さらに東北大学大学院医学系研究科の連携大学院として、次代を担うがん専門医師および研究者の養成にも力をいれています。がんの病態に関する最先端の知識を若手医師が習得し、日々の臨床に還元できるようにするのも研究所の務めです。宮城県立がんセンター研究所はがんの病態を解明し、治療成果に結びつくことを目指した研究を一丸となって推進することで宮城県民のがん診療に貢献してまいります。

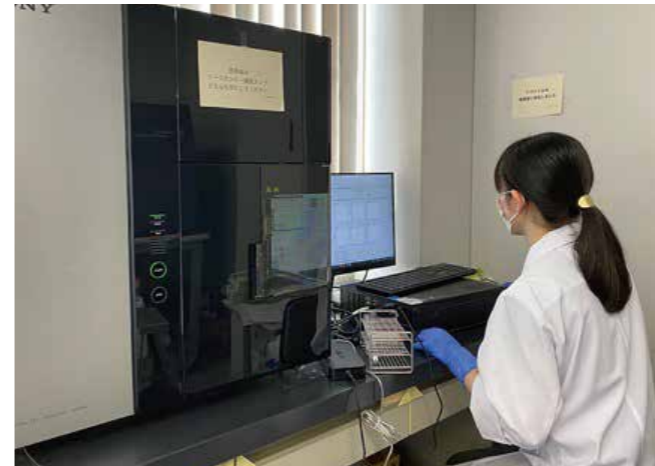
がん先進治療開発研究部(がん病態学分野)

1. 新たな腫瘍標的分子の開発

がん細胞の悪性化をもたらす新たな因子を探しだして、がん治療の標的として開発しています。

2. 人工エクソソームによるがん治療の研究開発

細胞から分泌される小胞をもとに、ワクチン機能などを模した人工エクソソームを開発し、がんワクチンの実現を目指しています。



がん細胞のフローサイトメトリー解析

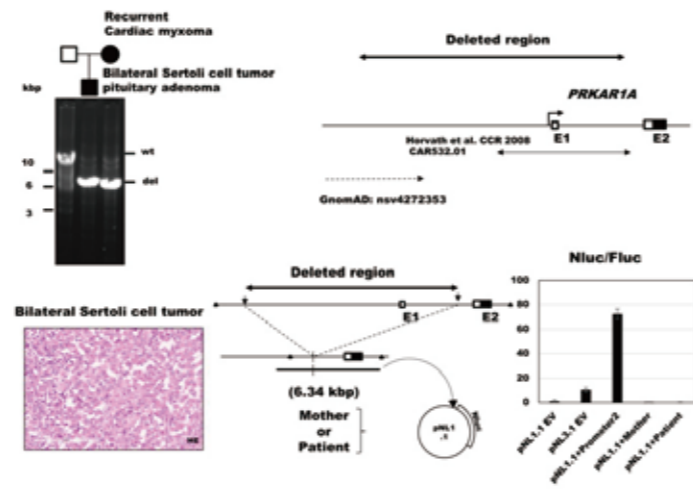


がん細胞分画の分取

発がん制御研究部(がん分子制御学分野)

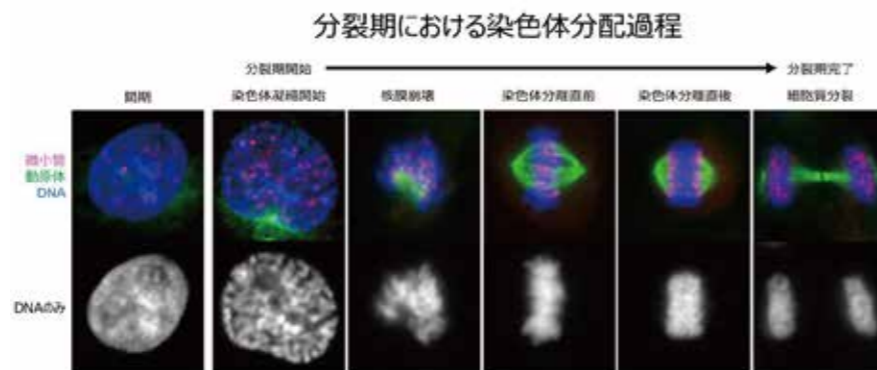
1. 臨床がんゲノム解析

家族性がんの原因変異の同定、再発がんの採血での診断(リキッドバイオプシー)、がん遺伝子パネル検査データの解析など、次世代シーケンサーデータの生命情報科学的解析から臨床に役立つ研究を行っています。



2. がんゲノム異常の発生メカニズムの研究

がんゲノム情報が変化する原因の1つとして、細胞分裂期における染色体分配異常が挙げられます。がんにおける染色体分配異常の仕組みを理解することで発がん制御に結びつく研究を目指しています。

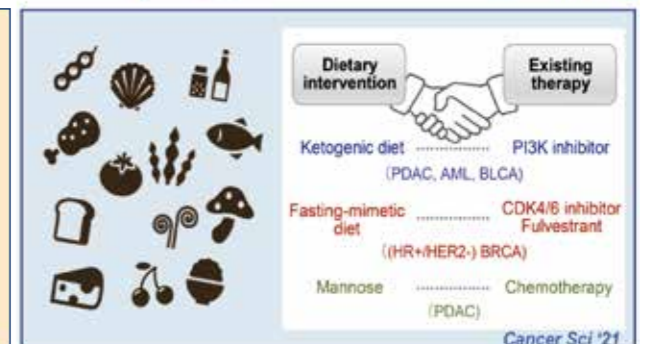
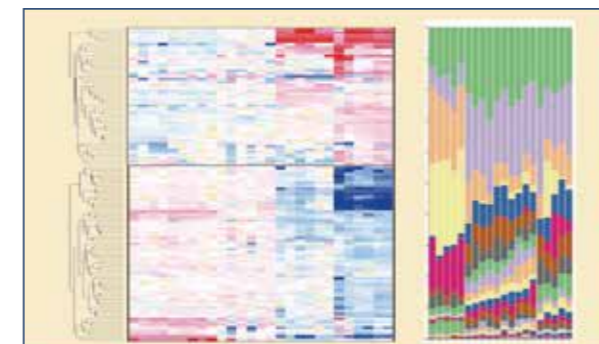
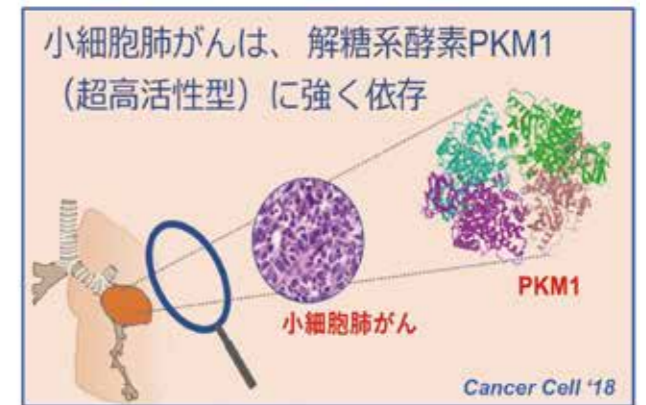


がん薬物療法研究部(腫瘍生化学分野)

1. 代謝特性をターゲットする、がん治療の開発
肺がんの代謝研究から、有望な治療標的経路を新たに同定しました(右上)。動物実験での検証を進め、治療応用を目指します。

2. がん治療のためのプレジジョン栄養学

食事は、我々の代謝系や腸内細菌叢に直接的に影響します(左下)。食事の精密最適化により、がん治療の効果が劇的に向上する事があると、動物実験にて分かってきました(右下)。食事介入による治療効果の最大化を目指します。



がん幹細胞研究部(がん幹細胞学分野)

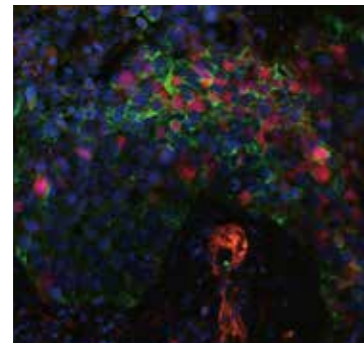
1. がん幹細胞(治療抵抗性がん細胞)の同定

頭頸部がん・胆管がんなどの希少がんに着目して、治療標的を確立するための基礎検討を行っています。

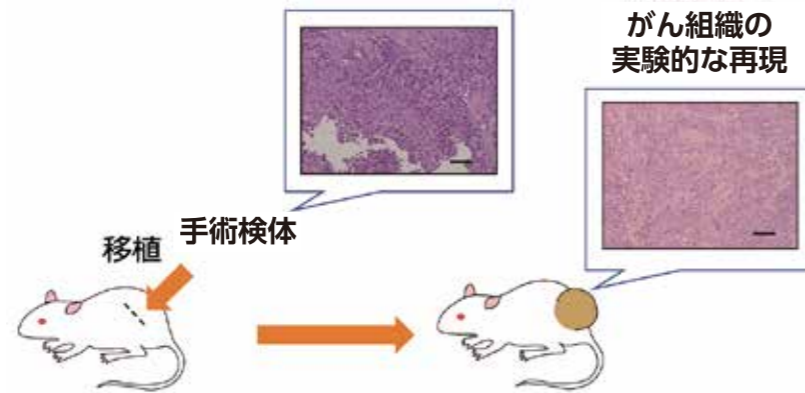


2. 異種移植モデルマウスの活用

がん組織の不均一性に着目して、臨床検体を用いた実際のがん組織に近いものを実験的に再現し、研究を行っています。



がん組織の不均一な構築



動物実験センター・ラジオアイソトープセンター



研究にはマウス等を用いた前臨床モデルでの実験やラジオアイソトープの使用が欠かせません。動物実験センターでは、個別換気ラック等の最新飼育設備を揃えています。ヒトがん細胞の生着容易な免疫不全マウスや、独自の遺伝子改変マウス群を飼育し、研究に供しています。ラジオアイソトープセンターには動物飼育施設、細胞培養室、低温実験室などがあり、幅広い研究目的に柔軟に対応可能な研究設備を備えています。

がん疫学・予防研究部(がん疫学・予防学分野)

がん登録を活用し、がん対策を推進する

1. がん登録のサポート・がん罹患の動向に関する研究

宮城県がん登録事業及び院内がん登録のサポートを行っています。得られたデータを分析し、がん対策の推進に役立てるとともに、県内外のがん診療連携拠点病院と協力してがん登録の質の向上を目指しています。

2. がんの予防対策に関する研究

入院患者さんへの質問紙調査を用い、がんの危険因子や予後に影響する要因の解明に取り組んでいます。また、平成3年度、市町村がん登録活用支援事業を立ち上げ、がん登録を活用したがん検診受診率の向上と精度管理の推進に取り組んでいます。



呼吸器科腫瘍学分野

1. 肺がんの遺伝子変異検出システムの開発
複数ある分子標的治療の対象となる遺伝子変異を効率的に同定するシステムを開発します。

2. 改良型サイトカインによる免疫治療の開発
いまや免疫治療は、肺がん治療の中心です。がん先進治療開発研究部と協力して、新たな免疫治療の開発を行います。

3. 細胞の代謝のしくみを利用した発がん機序の解明

がん細胞の特徴の一つは、代謝のシステムが異なっている事です。がん薬物療法研究部と協力して、この特徴を利用した発がんの仕組み、新たな治療の標的を明らかにします。



婦人科腫瘍学分野

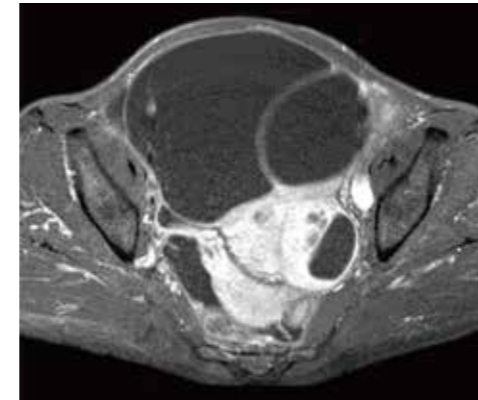
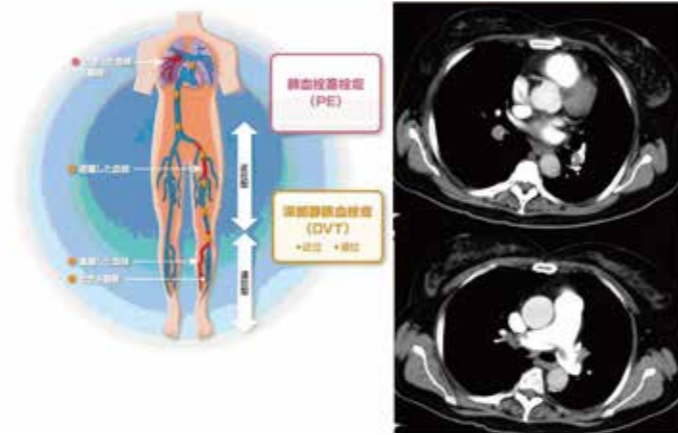
婦人科腫瘍学分野研究室は卵巣がん、子宮頸がん、子宮体がんといった婦人科がん患者を対象に東北では唯一のがんセンターとして最新の治療を行うと同時に、臨床に密着した形で研究を行っています。

具体的には

- (1) 排尿機能を温存した子宮頸がんに関する広汎子宮全摘術
 - (2) 卵子や配偶子の凍結保存に関する臨床的事項
 - (3) 再発卵巣がんの手術・化学療法(特に適応と限界について)
 - (4) 婦人科手術の術後合併症とその予防(リンパ浮腫、血栓症など)等
- が主たるテーマです。

高齢者の手術・化学療法の限界と適応といったテーマも今後研究の幅を広げて行きたいと考えています。婦人科がんの手術や化学療法などの治療に興味があり高度な技術や知識を身に付け、そこから研究(我々の施設では研究所を併設しており基礎的な研究も可能です)に発展させたいと考えている方に広く門戸を広げています。

肺塞栓・血栓症(PTE)



泌尿器科腫瘍学分野

前立腺がん、腎がん、膀胱がん、精巣がん、腎盂尿管がん、副腎がん、陰茎がんなど泌尿器科領域の全てのがんを対象としています。

ダヴィンチ手術、MRI 融合前立腺生検など最新の治療、検査を行うと同時に、臨床と密着した研究を行っています。

社会人大学院生として博士号取得はもとより、臨床も実践して腹腔鏡手術、ダヴィンチ手術の認定医ライセンス取得も可能です。

このように基礎と臨床のバランスの取れた泌尿器科専門医を育てることを目標としています。



ダヴィンチ Xi サージカルシステム



MRI/TRUS 3-D 融合画像ガイド下経会陰式前立腺生検システム (BioJet)

頭頸部腫瘍学分野

宮城県立がんセンター病院頭頸部外科と密接な関係を持ち、“臨床と基礎研究能力を身につけた善き頭頸部外科医の育成を目指す”ことを旗印としています。

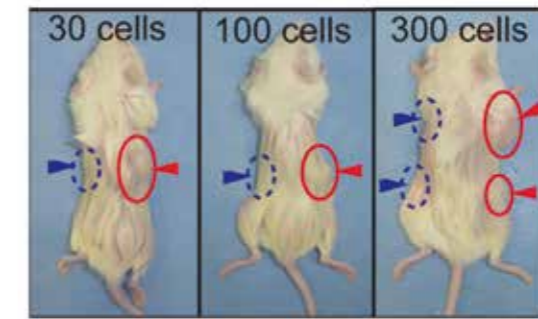
頭頸部がんに対する

- ①機能温存療法の開発
 - ②化学放射線療法における支持療法の開発
 - ③がん幹細胞マーカーの探索と特異的治療法の開発
- を研究テーマとしています。

博士号の取得はもとより頭頸部がん専門医の受験資格を満たすべく、社会人大学院生としての活動が可能です。



マウスでの腫瘍形成およびCD271+細胞の分化能力



赤矢印: CD271陽性細胞注入部、青矢印: CD271陰性細胞注入部
実線円: 腫瘍形成有、点線円: 腫瘍形成無し

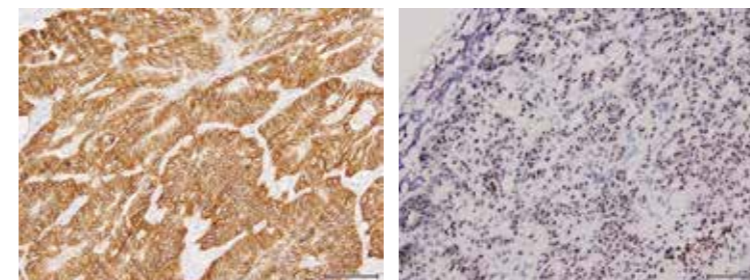
腫瘍病理学分野

高度先進治療・テーラーメイド医療を提供するうえで必須な診断システムを構築しています。

1. がんの遺伝子診断: 手術検体の一部から、ヒト体細胞遺伝子・生殖細胞系列遺伝子・病原体遺伝子に関する遺伝子診断(変異・増幅・転座など)を行います。
2. 治療方針の決定: 高度ながん医療を提供するため、これらの結果は実際の治療に速やかに還元されています。
3. 組織バンクの管理運営: 手術検体の一部を採取し、凍結保存遺伝子の抽出、遺伝子診断までの橋渡し役です。

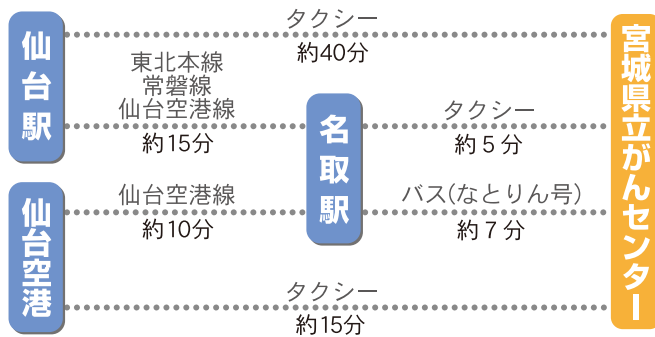
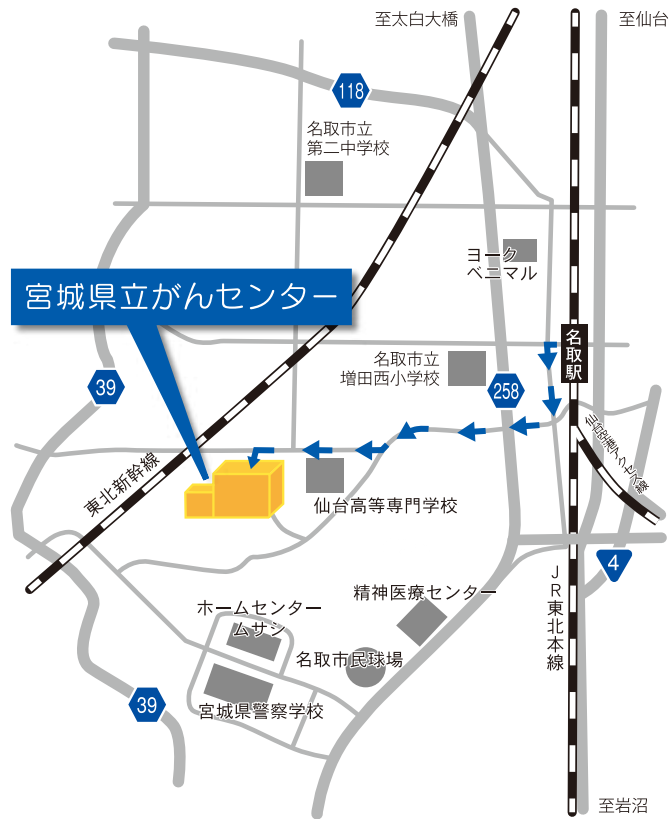


HER2(R678Q)+ 過剰発現・増幅



- 日本消化器病学会 認定施設
- 日本消化器外科学会 専門医研修施設
- 日本消化器内視鏡学会 指導施設
- 日本消化器がん検診学会 認定指導施設
- 日本医学放射線学会 放射線科専門医研修機関
- 日本放射線腫瘍学会 認定施設
- 日本外科学会 日本外科学会外科専門医制度研修施設
- 日本整形外科学会 専門医研修施設
- 日本呼吸器学会 認定施設
- 日本呼吸器外科学会 専門医制度関連施設
- 日本呼吸器内視鏡学会 専門医制度認定施設
- 日本泌尿器科学会 専門医教育施設
- 日本耳鼻咽喉科学会 専門医研修施設
- 日本超音波医学会 専門医研修施設
- 日本臨床細胞学会 認定施設
- 日本臨床細胞学会 教育研修施設
- 日本血液学会 研修認定施設
- 日本麻酔科学会 麻酔科認定病院
- 日本婦人科腫瘍学会 修練施設
- 日本乳癌学会 認定施設
- 日本乳房オンコプラステックサージャリー学会 インプラント実施施設
- 日本乳房オンコプラステックサージャリー学会 エキスパンダー実施施設
- 日本臨床腫瘍学会 認定研修施設
- 日本脳神経外科学会 専門研修連携施設
- 日本大腸肛門病学会 認定施設
- 日本病理学会 研修登録施設
- 日本頭頸部外科学会 研修施設
- 日本緩和医療学会 研修施設
- 日本栄養療法推進協議会 NST 稼働施設
- 日本臨床栄養代謝学会 NST 稼働施設
- 呼吸器外科専門医合同委員会 関連施設
- 日本骨髓バンク 非血縁者間骨髓採取認定施設
- 日本骨髓バンク 非血縁者間骨髓移植認定施設
- 東北大学病院 内科専門研修プログラム連携施設
- 日本がん治療認定医機構 認定研修施設
- 日本輸血・細胞治療学会 I&A 認証施設
- 日本医療薬学会 がん専門薬剤師研修施設
- 日本医療薬学会薬物療法専門薬剤師研修施設
- 日本産科婦人科学会 専門研修連携施設
- 日本臨床腫瘍研究グループ JCOG 参加施設
- 日本成人白血病治療共同研究グループ JALSG 参加施設
- 日本胆道学会 指導医制度認定施設
- 日本臓器学会 指導施設
- 胸部外科教育施設協議会 修練施設

ACCESS



地方独立行政法人 宮城県立病院機構

宮城県立がんセンター
 MIYAGI CANCER CENTER

〒981-1293 宮城県名取市愛島塩手字野田山47-1
 TEL : (022) 384-3151(代) FAX : (022) 381-1168
<https://www.miyagi-pho.jp/mcc/>

